

山口県医師会報

発行所 山口県医師会
〒 753-0811 山口市大字吉敷 3325-1
083-922-2510
編集発行人 藤井康宏
印刷所 大村印刷株式会社
定価 220 円 (会員は会費に含め徴収)

平成 15 年 3 月 1 日号

1670



霧氷

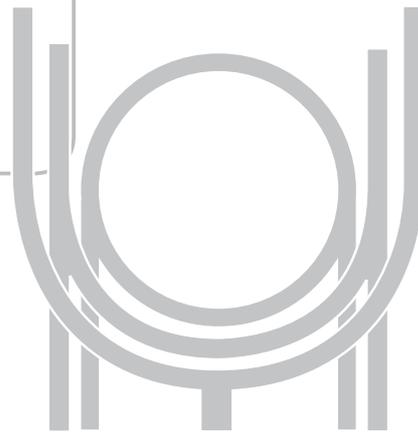
青山 榮 撮

今月の視点「医療事故と安全対策」..... 162

日医 FAX ニュース..... 165
山口県感染性疾病情報..... 172
ご案内・お知らせ..... 166 ~ 171

ホームページ <http://www.yamaguchi.med.or.jp>
メールアドレス info@yamaguchi.med.or.jp

今月の ① 視点



医療事故と安全対策

理事 西村 公一

昨年 4 月より県医理事に就任し、いきなり医事紛争と医療保険という、医師会でも多忙かつ重要な役割を担当させられることになった。特に医事紛争対策委員会で取扱う事例は増加の一途を辿っており、平成 14 年度に県医師会に報告された医療事故の件数は、現時点で過去最高であった年に迫り、不名誉な記録更新となりそうであるが、これも近年の社会情勢を如実に反映した結果とも考えられる。

そのため、医事紛争対策委員会も月 1 回の定例会のみでは処理できなくなり、臨時の委員会を土曜の午後や夜間にも開催しなければならない状況である。委員及び顧問弁護士の方々のご努力を見るに、新米の私としては弱音など吐けないといったところである。

先頃、宇部市の藤井副会長が「いしの声」で医事紛争対策委員会について書かれていた、「当事者である医師に対する配慮の行き届いた言葉遣いや対応にも頭が下がります。専門的な立場から事実関係の丁寧な確認がなされ、客観的な結論が出されます。有責であれ無責であれ、結論が出たあと、決まって当事者は肩の荷が少し下りたような感じにみえます。」という一節は、われわれに対する激励の言葉と受け取って感謝したい。医事紛争対策委員は当事者会員の動揺、不安を解消し、紛争事案の可及的速やかな解決を図ることにより、1 日も早く日常の診療に専念していた

だきたいという思いで、常に努力を重ねていることをご理解いただきたい。

医療事故は患者やその家族はもとより、われわれ医療従事者にとっても不幸な出来事である。事故の当事者となった患者や家族の悲しみや苦痛、怒りはもちろんのこと、われわれ医療従事者にとっても苦痛や後悔は計り知れない。病気を治してほしい、苦痛をとってほしい、命を救ってほしいなどという患者に対して、われわれ医療従事者は専門的知識、技術を持った専門家として対応しているだけに、その患者の期待を裏切るような行為があってはならないのは当然のことである。また、事故が起これば、経済的損失、信頼感の失墜など計り知れず、その回復のために要するエネルギーは膨大である。

医療事故を未然に防ぐために、われわれ医師は日頃から、日進月歩の医学・技術の研鑽を積むことはもちろんであるが、併せて良好な医師患者関係構築、医療従事者間の連携やコミュニケーションの強化、さらには事故防止に対する意識の高揚と危機管理を、より一層徹底させることが肝要である。

失敗を生かす

産業災害において、「ハインリッヒの法則」というのがある。つまり、1 件の「大事故」の背後に、それと同種の原因による 29 件の

「小さな事故」があり、さらにその裏にはケガまでではないものの、300 件の「ヒヤリ・ハットした体験」が存在しているという法則で、潜在的な労働災害とそれが顕在化する確立をいわば経験則から導き出した考え方である。この法則はそのまま医療事故にもあてはまるのである。

工学院大の畑村洋太郎教授が提唱される「失敗学」によれば、失敗学ができると、失敗を体系的にとらえるので予測ができ、効果的な予防法を立てられ、対応策を準備でき、実際事故が起こった時に正しい対処が可能になる。また、過去に起こったことを現在に生かせるとともに、他分野の知識を自分の分野に取り込むことができる。さらに、正しい経済的な見積もりができ、効果的な社会運営や立案ができるようになる。

こんな当たり前のことが今までに十分行われてこなかったのは、失敗はやってはいけないこと、恥ずかしいこと、悪いこととだけとらえ、失敗に真正面から向き合わなかったためである。

事故は本来、どんなことがあろうが起こしてはならないのであるが、しかし、起きてしまった失敗を生かしてそこから真摯に学ぼうとする姿勢があれば、大きな発展の種にすることもできるのである。

つまり医療事故においても、事故の発生までにいくつかのエラーが介在しており、しかもそうした複合的なエラーの連鎖を許すシステムや組織の欠陥こそが根本的な意味での事故原因である。従来行いがちであったように、最終的な行為者を特定し、その個人を非難し問責しても事故の再発防止には役立たないばかりか、妨げることになる。したがって、医療現場における些細なエラーを見逃さず、情報を収集しこれらを丹念に検証していく努力を継続することこそが、医療事故を未然に防ぐ有益な方法であり、このことこそが事故を防いでいくことの基本となるのである。

医療安全対策

日本医師会でもかねてより、医療事故対策についての取り組みを推進してきたが、各医療機関における対応は必ずしも十分なものではなかった。

昨年 10 月より、医療安全管理体制の整備状況が診療報酬に反映され、「医療安全管理体制未整備減算」が施行されることになって、皮肉にも、急にこの問題がクローズアップされてきた。有床医療機関では、医療安全管理のための指針の整備、アクシデント・インシデントの院内報告制度の整備、医療安全委員会の開催、職員研修の実施などが事実上義務付けられた。県医師会でも昨年「医療安全推進責任者研修会」を開催しその普及に取り組んでいる。

その研修会のテキストにアクシデント・インシデント報告が実行されにくい原因について報告が例示されている。

- イ、インシデントレポートを書く時間がない。
- ロ、他の人も書いていないのだから自分も書かない(書きたくない)
- ハ、数多くのインシデントレポートを提出すると、報告者の資質を問われる恐れがある。
- ニ、自分の失敗を書く(同僚に知られる)ことに抵抗がある。
- ホ、何を書いてよいか分からない。
- ヘ、折角書いても何に使われているのかよく分からないため、書く気がしない。

このような意見が出てくる背景には、この報告制度の目的や趣旨が十分に伝わっていないことが考えられる。

昨年 11 月に開催された「中国四国医師会医事紛争研究会」でもこれらの問題が議題となった。特にインシデントレポートについては、「報告したことによって、自分が不利益を被るのではないか」という思いがあって、

院内でなかなか上げにくい雰囲気であり、その対策に苦慮しているとの報告があった。しかし、このような個人を迫及する現状が院内にあるとすれば、改善が進むことなくその医療機関はさらに危険な場となっていく事は明白である。ミスは他人に知られたくないものであるが、ミスを率直に伝え、事態は好転することが多いという事実を、管理者が職員に対して十分に説明する必要があると思う。

そしてさらに大切なことは、選任されたリスクマネージャーが中心となって、これらのレポートを医療安全対策委員会で十分に検討し、院内の医療安全のために生かすことである。つまり、レポートの内容を吟味し、その事例の要因を分析し、改善策を検討し、その改善策を徹底していくことが重要である。その具体策については医療安全推進責任者研修会テキストを参照されたい。

医事紛争対策

医療行為が直接人と人とのかわりの中で行われるものである以上、医療事故をゼロにすることは不可能である。したがって大切なことは、これまで述べてきたように、事故の未然防止策に万全を期すことである。それによって、事故を最小限に食い止めることができる。また不幸にして医療事故が発生した場合でも、患者及びその家族との良好な信頼関係が保たれていれば、医事紛争などに発展しないですむことが多い。もしも事故が発生した場合には、患者及びその家族に対して、医療の専門家として十分な説明を行い、誠意を持って対応することが必要であることはいうまでもない。

最近では、示談で解決できるような事例であっても、医師患者関係のトラブルから、あえて患者側が刑事告訴を行う事例もみとめられるようになった。

また、このほど医道審議会医道分科会がだした「医師及び歯科医師に対する行政処分の方針について」によれば、「国民の医療に対する信頼確保に資するため、刑事事件とならなかった医療過誤についても、医療を提供する体制や行為時点における医療の水準などに照らして、明白な注意義務違反が認められる場合などについては、処分の対象として取扱うものとする。」さらに「病院の管理体制、医療体制、他の医療従事者における注意義務の程度や生涯教育に努めていたかなどの事項も考慮して、処分の程度を判断する。」と明記されている。

つまり、たとえ民事で解決した事例で相手側から刑事告訴されなくても、明白な注意義務違反があれば、医道審議会に諮られ行政処分を受けることもありうるということである。さらに、医療機関としての医療安全対策整備状況などの管理体制も、処分の程度に影響するということである。

このような行政処分の強化に臆することはまったくないのであるが、患者さんが安心して医療を受けることができる環境を構築することは、われわれ医療を提供する側に与えられた責務であると考えます。

参考文献

- 1) 山口県：山口県医療安全対策ガイドライン． 2002
- 2) 畑村祥太郎：失敗学のすすめ 講談社
- 3) 損保ジャパン・リスクマネジメント：医療事故防止マニュアル作成の手引き． 2002
- 4) 損保ジャパン・リスクマネジメント：医療安全推進責任者研修会テキスト． 2002

日医 FAX ニュース

2月11日 1332号

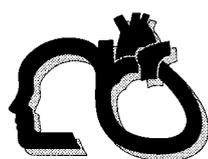
3割負担問題で与野党の思惑交錯
「真の医療制度改革」実現に向け議論再開
野党の「3割負担凍結法案」、賛否には触れず
診療情報開示の法制化で意見分かれる

2月14日 1333号

予想以上の医療費減少で3割負担の必要なし
35県で議会に請願書提出、意見広告も30県に
3割負担凍結法案を提出
3割負担問題で山崎幹事長に調整申し入れへ
03年度政管健保財政は994億円黒字
03年度の社会保障負担は0.2ポイント上昇

2月18日 1334号

被用者3割負担問題で「責任ある」回答求める
医療経営への株式会社参入認めない方針貫く
WG案、厚労省案と対比させ診療報酬で意見交換
入院機能評価 版は4月本格稼働



Ca拮抗剤

薬価基準収載

ニバジール錠[®] 2mg 4mg Nivadil[®] Tablets

(ニルバジピン錠)

劇薬・指定医薬品・要指示医薬品^{注)}

注) 注意—医師等の処方せん・指示により使用すること

●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等に
つきましては、製品添付文書をご参照下さい。

製造発売元



資料請求先：
藤沢薬品工業株式会社

作成年月2001年11月

学術講演会

ご
案
内

と き 平成 15 年 3 月 7 日 (金) 午後 7 時～
 ところ 岩国錦水ホテル
 岩国市麻里布町 1-2- 2 TEL:0827-22-2311
 演 題 「倉敷地区における心臓病の地域チーム医療」
 倉敷中央病院循環器内科主任部長 光藤 和明
 日本医師会生涯教育制度による単位 (5 単位) を取得できます
 主催 岩国市医師会

学術講演会・産業医研修会

ご
案
内

と き 平成 15 年 3 月 11 日 (火) 午後 7 時～
 ところ 岩国錦水ホテル
 岩国市麻里布町 1-2- 2 TEL:0827-22-2311
 演 題 「職場における高脂血症対策」 - 健康増進のための食事指導 -
 富山医科薬科大学和漢薬研究所教授 浜崎 智仁
 日本医師会認定産業医制度による単位 (基礎・後期研修 2 単位または生涯・専門研修 2 単位) を取得できます
 日本医師会生涯教育制度による単位 (5 単位) を取得できます
 主催 岩国市医師会

山口県医師会産業医研修会

ご
案
内

と き 平成 15 年 3 月 22 日 (土) 午後 3 時～午後 5 時 30 分
 ところ 山口県医師会 6 F 大会議室
 山口市大字吉敷 3325-1 (山口県総合保健会館内)
 特別講演 15:00 ~ 16:00
 「産業医の任務」 山口産業保健推進センター所長 田村 陽一
 山口県医師会産業医部会総会 16:00 ~ 16:30
 特別講演 16:30 ~ 17:30
 「産業医活動の実際」 宇部興産(株)健康管理センター健康管理室長 菅 裕彦
 【取得できる単位】
 日本医師会認定産業医制度：基礎研修 後期 2 単位
 生涯研修 更新 1 単位・専門 1 単位
 日本医師会生涯教育制度 : 5 単位

第 1 回医療マネジメント学会山口地方会

一
案
内

と き 平成 15 年 3 月 15 日 (土) 午後 1 時 ~
と ころ 山口県総合保健会館 多目的ホール・第 1 研修室

特別講演 医療マネジメント学会理事長、国立熊本病院長 宮崎 久義

学会事務局：済生会山口総合病院内 湧田幸雄

国立岩国病院地域医療研修センターカンファレンス 第 14 回研修 小児科カンファレンス

一
案
内

と き 平成 15 年 3 月 7 日 (金) 午後 7 時 30 分 ~
と ころ 国立岩国病院地域医療研修センター 視聴覚室

演 題 発達障害児の地域支援：～ 1 センターからネットワークの時代へ～
かねはら小児科 金原 洋治

本研修会は 2 月 18 日から変更されました。

第 15 回は 3 月 25 日 (火) 午後 7 時 ~ (岩国市医師会館) となっています。

薄化粧

竹秋句会

鉢の木の	一節のみの	謠初	中嶋 由王
黒髪を	殊更ほめて	初詣	笠原北斗窓
三宝の	木地鮎色に	餅飾る	中山 裕子
冬帽子	脱げば見なれし	顔となり	原 俊雄
また来ると	言うて旅立つ	三日かな	吉武三和子
病床に影を	ゆらして	吊し柿	平田 眞矢
洗ひ米こぼれを	拾ふ一葉忌		井上佳代女
御降り	に合ふやも	知れぬ山登	中山 泥子
解けずあれ	四方新雪	薄化粧	水津奈々子

春隣

徳医句会

故郷の	雑炊に身の	あたたまる	浅海日出子
御降の	あいさつほど	であがりけり	
ハング	ライダー	空にうかびて	春隣
春隣	胎動ありと	告げに来る	
宮の	鈴良く響きたり	初詣	村田 周陽
虎落	笛ぜんそく患者	とりこめぬ	
吾が	孫と判る泣き	声寒の夜	
初午	や赤く染まりて	鳥居ぬけ	
老いて	なほ健啖ぶり	や晦日そば	武田 子龍
熱爛に	友はいつもの	愚痴こぼす	
亡き	父母の齡越え	たり路のたう	
思ひ	切り口に	頬張るな	ずな粥
初雪	を窓に	感じて	困暮をうつ
茂る	芦鴨を抱	きて暮れむ	とす
夜の	吹雪朝の	煌めき	迎へけり
大寒	や負けず	踏み出す	今朝の試歩

日本医師会認定産業医制度指定研修会

注：() 内の数字は単位数

東京都医師会 03-3294-8821
基礎・前期(6) 3/15(土)
基礎・前期(8) 3/16(日)

荒川区医師会 03-3893-2331
基礎・後期(2) 3/11(火)
生涯・専門(2) 3/11(火)

三鷹市医師会 0422-47-2155
基礎・実地(各1) 4/2(水) 5/9(金)
基礎・後期(各1) 4/2(水) 5/9(金)
生涯・実地(各1) 4/2(水) 5/9(金)
生涯・専門(各1) 4/2(水) 5/9(金)

町田市医師会 042-722-9486
基礎・実地(3) 3/8(土)
生涯・実地(3) 3/8(土)

東京大学医師会 03-3816-4751(FAX)
基礎・後期(5) 5/17(土)
生涯・更新(2) 5/17(土)
生涯・専門(3) 5/17(土)

順天堂大学医師会 03-5802-1140
基礎・実地(1) 3/15(土)
基礎・後期(4.5) 3/15(土)
生涯・実地(1) 3/15(土)
生涯・専門(4.5) 3/15(土)

日本産業衛生学会(東京都)
03-3762-4151
基礎・後期(4) 5/10(土)
生涯・専門(4) 5/10(土)

東京都医師会 03-3519-2110
基礎・後期(各3) 3/6(木) 3/8(土)
生涯・更新(各1) 3/6(木) 3/8(土)
3/13(木)
生涯・実地(2) 3/13(木)
生涯・専門(各2) 3/6(木)
3/8(土)

東京都医師会 03-3691-8536
基礎・実地(2) 3/12(水)
生涯・実地(2) 3/12(水)

愛知県医師会 052-241-4136
基礎・実地(各2) 3/4(火) 3/18(火)
生涯・実地(各2) 3/4(火) 3/18(火)

春日井市医師会 0568-82-8300
基礎・後期(2) 3/6(木)
生涯・専門(2) 3/6(木)

豊田加茂医師会 0565-33-2655
基礎・後期(2) 3/12(水)
生涯・更新(1) 3/12(水)
生涯・専門(1) 3/12(水)

愛知医科大学 0561-62-3311
基礎・後期(5) 3/8(土)
生涯・専門(5) 3/8(土)

日本産業衛生学会(愛知県)
052-853-8171
基礎・後期(4) 3/14(金)
生涯・専門(4) 3/14(金)

愛知県医師会 03-3584-5421
基礎・実地(2) 4/13(日)
基礎・後期(4.5) 4/13(日)
生涯・更新(1) 4/13(日)
生涯・実地(2) 4/13(日)
生涯・専門(3.5) 4/13(日)

三重県医師会 059-228-3822
基礎・実地(4) 11/20(木)
基礎・後期(各4) 6/19(木) 7/31(木)
9/18(木) H16.1/11(日)
生涯・更新(各4) 6/19(木) 7/31(木)
9/18(木)
生涯・実地(4) 11/20(木)
生涯・専門(4) H16.1/11(日)

三重県医師会 059-213-0711
基礎・実地(3) 3/20(木)
生涯・実地(3) 3/20(木)

滋賀県医師会 077-524-1273
基礎・後期(3) 3/15(土)
生涯・専門(各3) 3/8(土) 3/15(土)

大阪府医師会 06-6763-7002
基礎・実地(4) 5/11(日)
基礎・後期(各2) 3/12(水) 3/20(木)
3/27(木)

基礎・後期(6) 3/9(日)
生涯・更新(1) 3/12(水)
生涯・実地(4) 5/11(日)
生涯・専門(1) 3/12(水)
生涯・専門(各2) 3/20(木) 3/27(木)

アルコール関連内科疾患と依存の研究会 (大阪府) 06-6835-2811 基礎・後期(2) 3/8(土) 生涯・専門(2) 3/8(土)	高松市医師会 087-831-2208 基礎・実地(2) 3/29(土) 生涯・実地(2) 3/29(土)
尼崎市医師会 06-6426-6333 基礎・実地(2) 3/29(土) 生涯・実地(2) 3/29(土)	香川医科大学医師会 087-891-2384 基礎・前期(2) 3/7(金)
奈良県医師会 0744-22-8502 基礎・後期(2.5) 3/6(木) 生涯・専門(2.5) 3/6(木)	愛媛県医師会 089-943-7582 基礎・前期(各7) 3/23(日)、3/30(日)
奈良県医師会 0742-25-3100 基礎・後期(2.5) 3/27(木) 生涯・専門(2.5) 3/27(木)	福岡県医師会 092-431-4564 基礎・後期(2) 3/7(金) 生涯・専門(2) 3/7(金)
和歌山県医師会 073-421-8990 基礎・後期(1) 3/20(木) 生涯・実地(2) 3/20(木) 生涯・専門(1) 3/20(木)	日本産業衛生学会(福岡県) 092-431-4564 基礎・後期(2) 6/14(土) 生涯・専門(2) 6/14(土)
岡山県医師会 086-272-3225 基礎・実地(2) 3/29(土) 基礎・後期(1) 3/29(土) 生涯・更新(1) 3/29(土) 生涯・実地(2) 3/29(土)	福岡県医師会 03-3584-5421 基礎・実地(2) 5/11(日) 基礎・後期(4.5) 5/11(日) 生涯・更新(1) 5/11(日) 生涯・実地(2) 5/11(日) 生涯・専門(3.5) 5/11(日)
下関市医師会 0832-52-2188 基礎・後期(2) 3/13(木) 生涯・専門(2) 3/13(木)	宮崎県医師会 0985-22-5118 基礎・実地(2) 3/13(木) 基礎・後期(各2) 4/10(木)、4/17(木)、 4/23(水) 生涯・実地(2) 3/13(木) 生涯・専門(各2) 4/10(木)、4/17(木)、 4/23(水)
山口県医師会 083-922-2510 基礎・後期(2) 3/22(土) 生涯・更新(1) 3/22(土) 生涯・専門(1) 3/22(土)	宮崎市郡医師会 0985-22-5118 基礎・実地(3) 3/15(土) 生涯・実地(3) 3/15(土)
日本産業衛生学会(山口県) 0836-22-2231 基礎・後期(2) 4/25(金) 基礎・後期(2.5) 4/26(土) 基礎・後期(3) 4/24(木) 生涯・専門(2) 4/25(金) 生涯・専門(2.5) 4/26(土) 生涯・専門(3) 4/24(木)	鹿児島県医師会 099-254-8121 基礎・前期(6) 3/29(土) 基礎・前期(8) 3/30(日) 基礎・実地(各2) 3/13(木)、3/20(木)、 3/26(水) 生涯・実地(各2) 3/13(木)、3/20(木)、 3/26(水)
日本産業衛生学会(山口県) 0836-22-2231 基礎・実地(2) 4/27(日) 基礎・後期(6) 4/27(日) 生涯・更新(1) 4/27(日) 生涯・実地(2) 4/27(日) 生涯・専門(5) 4/27(日) 最大6単位の取得が可能	***** 上記研修会の詳細、受講申込につき ましては、すべて主催の医師会等 にご連絡ください。

こ
案
内

日医認定健康スポーツ医制度における 健康スポーツ医学再研修会

標記のうち中四国地区で開催されるものは下記のとおりです。

鳥取県東部医師会

開催日時：3月28日(金) 19:00～20:30

受講資格：日医認定健康スポーツ医他

演 題：1 トップアスリートにおけるメディカルケア - 次のワールドカップをめざして -
〔兵庫医科大学整形外科助教授 田中 寿一〕

単位数：1 単位

岡山市医師会

開催日時：3月7日(金) 19:30～21:00

受講資格：岡山県医師会会員、岡山市医師会会員、日医認定健康スポーツ医

演 題：1 スポーツドクターに必要なドーピングの基礎知識
〔岡山大学教育学部教授 高橋 香代〕

単位数：1 単位

岡山県体育協会、岡山県医師会

開催日時：3月9日(日) 13:30～17:30

受講資格：日医認定健康スポーツ医他

演 題：1 岡山県におけるアンチ・ドーピング活動
〔岡山大学教育学部教授 高橋 香代〕
2 JOC GOLD PLAN の推進と競技力向上
〔筑波大学体育科学系教授 河野 一郎〕

単位数：2 単位

広島県医師会、福山市医師会

開催日時：3月8日(土) 14:00～17:00

受講資格：日医認定健康スポーツ医及び医師会会員

演 題：1 スポーツ力の向上にも役立つ高齢者の筋肉減弱(サルコペニア)防止の
運動と食事法
〔筑波大学体育科学系教授 鈴木 正成〕

単位数：2 単位

宇和島市医師会スポーツ医部会

開催日時：3月8日(土) 16:30～18:00

受講資格：日医認定健康スポーツ医他

演 題：1 2002年FIFAワールドカップにおける日本代表チームのメディカルサポート
〔川崎製鉄病院整形外科部長 森川 嗣夫〕

単位数：1 単位

南医院の二一スにあつた医小業務の提供

徳二子イ学館

徳山支店 0824-31-8020

〒745-0036 徳山市本町1-3 大同生命徳山ビル4階

TEL 0824-31-8020 FAX 0824-31-8021

〒745-0036 徳山市本町1-3 大同生命徳山ビル4階

TEL 0824-31-8020 FAX 0824-31-8021

周南市発足にともなう政府管掌健康保険被保険者証の
記号変更及び交換について 山口社会保険事務局

平成 15 年 4 月 21 日に周南市が発足し、政府管掌健康保険被保険者証(以下「被保険者証」という)の記載事項が変更となります。

記

1. 被保険者証の記号が次のとおり変更。
記号について、「徳、陽、熊(熊毛町所在分に限る)都」を「周」に変更。
2. 記号の変更に係る、周南市所在における使用中の被保険者証(以下「旧被保険者証」という)と、変更後の記号による被保険者証(以下「新被保険者証」という)との交換は、平成 15 年 5 月 1 日から平成 15 年 7 月 31 日までの間において実施。
3. 旧被保険者証は、平成 15 年 7 月 31 日限りで無効。
4. 平成 15 年 4 月 21 日以降に交付する被保険者証は、変更後の記号を使用。
5. 新被保険者証の交付は、上記 2 及び 4 により順次行うので、平成 15 年 4 月 21 日から平成 15 年 7 月 31 日までの間は、新被保険者証のほか、旧被保険者証も有効。
6. 保険者所在地については、「徳山市」が「周南市」に変更となるが、当分の間、旧市町村名(徳山市)による表記も有効。

お知らせ

(参 考) 周南市発足に伴う被保険者証の記号変更等

被保険者証の記号変更

徳山市	徳	周南市	周
新南陽市	陽	周南市	周
熊毛郡	熊(熊毛町)	周南市	周
都濃郡	都(鹿野町)	周南市	周
下松市	松	現行どおり	松
光市	光	現行どおり	光
熊毛郡	熊(田布施町、平生町、上関町、大和町)	現行どおり	熊

保険者の所在地変更

【旧所在地】 徳山市 新宿通 5-1-8

【新所在地】 周南市 新宿通 5-1-8

周南市に転居した際の住所変更

山口県感染性疾病情報

平成 15 年 1 月分

医療圏（福祉センター） （圏内医師会）	岩国 （玖珂）	柳井 （大島）	徳山 （下松・ 光・ 熊毛）	防府	山口 （吉南・ 阿東）	宇部 （小野田・ 厚狭・ 美祢）	萩	長門	下関 （豊浦）	合計
インフルエンザ定点	8	5	11	6	8	12	2	3	15	70
インフルエンザ	1,797	1,342	2,060	1,079	1,248	1,673	300	1,215	2,723	13,437
小児科定点	5	4	8	4	5	9	1	2	11	49
咽頭結膜熱	0	0	4	1	0	6	0	0	12	23
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	3	96	31	21	92	7	8	57	323
感染性胃腸炎	229	49	249	120	136	314	99	145	300	1,641
水痘	47	9	178	99	70	129	28	15	198	773
手足口病	2	3	5	0	1	8	0	4	1	24
伝染性紅斑	0	0	16	1	2	12	0	1	28	60
突発性発疹	22	2	52	12	18	26	3	7	43	185
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
風疹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ヘルパンギーナ	0	0	0	1	0	4	0	0	3	8
麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性耳下腺炎	7	2	54	18	3	9	2	4	23	122
眼科定点	1	1	1	1	1	1	0	1	2	9
急性出血性結膜炎	0	0	0	1	0	0	-	0	1	2
流行性角結膜炎	23	24	1	10	0	3	-	0	4	65
基幹定点（週報）	1	1	1	1	1	0	1	1	1	8
急性脳炎（日本脳炎を除く）	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0
細菌性髄膜炎（真菌性を含む）	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0
マイコプラズマ肺炎	1	0	1	1	0	-	0	0	3	6
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0
成人麻疹	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0

[平成 15 年 1 月情報]

冷え冷えとしたこの冬の大寒波到来、旧年末 12 月中旬より立上りの早いインフルエンザ大流行、その上に、宇宙ロケット“スペースシャトル・コロンビア”の事故！今ここに、早い立上がりで急減中のインフルエンザの今後に明るさを託しての立春となっている。

流行消退中ながら、インフルエンザは、なお、全県下流行多発中、A 型に加え B 型散発の報告が加わってきている。

ウイルス感染症として RS ウイルス症のほか、多くはないが、ロタウイルス胃腸炎の発生報告もあり、注意は怠れない。

今月を除いて例月第 1 位の感染性胃腸炎も引き続き多発報告続いている。

水痘は例年どおり冬季多発生続いている、伝染性紅斑散発生。

麻疹については、麻疹制圧の予防接種キャンペーン効果で、このところ報告はない。

流行性耳下腺炎、徳山圏域多発生その後鎮静。

流行性角結膜炎については月後半の多発傾向が目立っている。

[鈴木検査定点情報]

インフルエンザ（香港 A 型）に混じり、インフルエンザ B 型流行が 1 月下旬始まる。

溶連菌感染症・アデノウイルス感染症がある。

ロタ・ウイルス感染症のウイルス性嘔吐下痢症多発。

[徳山中央病院情報]

年末から年始にかけては休みが長かったこと、RS とインフルエンザが共存していたこと等から急患が多く、入院も多かった。呼吸器疾患が大部分で急性細気管支炎・急性気管支炎・喘息性気管支炎・仮性クループ気管支肺炎・気管支喘息などであった。

原因は RS ウイルス 30 名、インフルエンザ A24 名でほとんど占めた。

百日咳 2 名、川崎病 3 名、急性 ITP 3 名。

急性胃腸炎、特にロタウイルスは例年になく少なかった。

[山口日赤病院情報]

インフルエンザ（香港 A 型）上旬多発流行、下旬にやや減少傾向。下旬に B 型インフルエンザ少数発生。
 感染性胃腸炎 小流行。ロタ・ウイルス感染少数発生を見る。
 溶連菌感染症・水痘 小流行続く。 RS ウイルス感染症（細気管支炎）もひき続いて多発生を見る。

[現在の状況]

引き続き香港 A 型インフルエンザ流行、B 型報告散見。 感染性胃腸炎多発生続く。
 水痘、A 型溶血性レンサ球菌咽喉炎、多報告。

[12 月の多報告順位](内数字は前回の順位)

- 1) インフルエンザ、 2) 感染性胃腸炎、 3) 水痘、
- 4) A 群溶血性レンサ球菌咽喉炎、 5) 突発性発疹、 6) 流行性耳下腺炎、
- 7) 流行性角結膜炎、 8) 伝染性紅斑、 9) 手足口病、 10) 咽頭結膜熱

[山口県医情報編集室] 鈴木英太郎、倉光誠、内田正志、田原暁、健康増進課（西山担当ほか）

【最新情報までの週間推移】

第 52 週～第 4 週（12/23～1/26）

インフルエンザ	(1072 - 670 - 3114 - 4237 - 4344)	963	13437	県内本格的流行
咽頭結膜熱	(1 - 5 - 6 - 6 - 5)	13	23	散発流行つづく
A 群溶血性レンサ球菌咽喉炎	(90 - 18 - 56 - 75 - 84)	477	323	全県下多発流行続く
感染性胃腸炎	(360 - 164 - 321 - 366 - 430)	2581	1641	インフルエンザ流行の影響により全県下著減
水痘	(155 - 103 - 224 - 135 - 156)	606	773	例年どおりの冬季多発生続
手足口病	(0 - 0 - 8 - 6 - 10)	6	24	集計増、散発
伝染性紅斑	= (11 - 8 - 14 - 11 - 16)	53	60	散発、非流行
突発性発疹	(31 - 20 - 44 - 51 - 39)	237	185	例月どおり、大略同程度多報告続く
百日咳	(0 - 0 - 0 - 0 - 0)	2	0	今月報告なし
風疹	= (0 - 0 - 0 - 0 - 0)	0	0	今月報告なし
ヘルパンギーナ	= (2 - 1 - 1 - 1 - 3)	10	8	下関・宇部のみ、報告まれ
麻疹	= (0 - 0 - 0 - 0 - 0)	0	0	このところ無報告続く
流行性耳下腺炎	= (31 - 19 - 29 - 22 - 21)	151	122	引き続き徳山圏域多発生目立つ
急性出血性結膜炎	= (1 - 0 - 1 - 0 - 0)	1	2	まれ
流行性角結膜炎	= (14 - 1 - 19 - 18 - 13)	74	65	東部（岩国・柳井・防府）に比較的多発
急性脳炎	= (0 - 0 - 0 - 0 - 0)	0	0	今月報告なし
細菌性髄膜炎	= (0 - 0 - 0 - 0 - 0)	0	0	今月報告なし
無菌性髄膜炎	= (0 - 0 - 0 - 0 - 0)	0	0	今月報告なし
マイコプラズマ肺炎	= (2 - 1 - 1 - 2 - 0)	4	6	岩国・徳山・防府各 1、下関 3
クラミジア肺炎	= (0 - 0 - 0 - 0 - 0)	0	0	今月報告なし
成人麻疹	= (0 - 0 - 0 - 0 - 0)	0	0	今月報告なし

平成 15 年 1 月定点コメントによる週別集計表

病原体あるいは抗体価確認例 (迅速診断含む)	52 週	1 週	2 週	3 週	4 週	合計
	12/23-12/29	12/30-1/5	1/6-1/12	1/13-1/19	1/20-1/26	
カンピロバクター腸炎	0	0	1	2	2	5
病原大腸菌性腸炎	1	4	3	6	1	15
サルモネラ腸炎	1	0	0	0	1	2
マイコプラズマ肺炎	10	3	3	2	2	20
アデノウイルス感染症上気道感染症	3	1	4	3	4	15
アデノウイルス感染症下気道感染症	0	0	0	0	0	0
クラミジア呼吸器感染症	0	0	0	0	0	0
RS ウイルス感染症	0	3	7	1	1	12
ロタウイルス胃腸炎	11	3	6	9	25	54

臨床診断例	52 週	1 週	2 週	3 週	4 週	合計
	12/23-12/29	12/30-1/5	1/6-1/12	1/13-1/19	1/20-1/26	
ヘルペス歯肉口内炎	2	1	0	0	0	3
川崎病	0	0	0	0	0	0

[特記事項] 無し

